



注目が集まる小型セパレートコンポ市場に トップブランド「INTEC」の最先端技術モデルが登場

New INTEC 205 Series

オーディオ市場も他の市場と同様に二極化が進んでおり、プレーヤーやアンプ、録音機を一体型にしたミニコンポと、従来のフルサイズ（横幅約450mm程度）オーディオを最新技術により小型化した「小型セパレートコンポ」の二極市場となっています。一体型コンポに比べ比較的高価な小型セパレートコンポの人気の高まっている理由には、パソコンで音楽を記録するライフスタイルが一般化したことで録音機を必要としなくなったことがあげられます。これまでは、録音機を含めると最低でも3筐体（アンプ+CDプレーヤー+MDなどの録音機）が必要となり高額で場所もとりましたが、現在ではCDプレーヤー+アンプのミニマムなシステムで本格的なオーディオを所有することができるようになったからです。セパレートタイプのコンポの優位性は、ひとつに単独設計できることから音質を高めることができること、さらには将来に渡ってあらたなユニットを組み合わせることができる発展性豊かなロングライフ設計であることです。4年ぶりのモデルチェンジとなるINTEC最新モデルでは、最先端のテクノロジーを投入したスピーカーシステムを中心にブラッシュアップを行い、さらなる音質向上を図っています。従来の音楽ファンだけでなくデジタルオーディオプレーヤーのユーザーなど幅広い層へ、いい音で音楽を楽しむ豊かさを提案してまいります。

IMAGINATIVE SIGHT & SOUND

ONKYO[®]

プレスお問合せ先 オンキョー株式会社 マーケティング部 山本誓一 TEL.072-831-8005
写真画像はこちらから www.jp.onkyo.com/onkyo/ の「New Products」より当製品をクリックください
掲載時のお客様お問合せ先 オンキョーコールセンター TEL.050-3161-9555



A-905FX2

プリメインアンプ

¥52,500(税込) 2月14日発売予定

- 大型コンポーネントの約半分のサイズ(横幅205mm)で、圧倒的なピュアサウンドを実現する高性能デジタルアンプ
- 最先端テクノロジー「VL Digital」を採用。デジタルアンプのパワーを最大限に引き出し、原音に忠実な音楽再生を実現
- 電源部に大容量のEI型トランスを搭載して、安定性や応答性に優れた電源回路を構築
- 各回路へエネルギーを供給する電力供給経路に銅バスプレートを使用。伝送ロスを少なくして、芯の太い音色を実現
- 電氣的ノイズを発生しにくい制振ボディに。高剛性シャーシ、アルミ素材のフロントパネルやボリュームつまみを採用
- 演奏のニュアンスがより豊かに。コンデンサなど内部パーツを最適化して、微細な音楽情報の再現力を向上
- 高音、低音に加え、超低域の調整を装備した3バンド・トーンコントロール機能
- ケーブルとの接点における伝送ロスを最小限に抑え、音質劣化を防ぐ金メッキ端子を装備

定格出力	60W+60W(4Ω、1kHz、0.5%以下THD)
実用最大出力	80W+80W(4Ω、JEITA)
周波数特性	10Hz~60kHz(LINE、+1dB/-3dB)
SN比	100dB(CD、IHF-A)
音声入出力端子	入力:アナログ7 出力:アナログ3、サブウーファープリ1
最大外形寸法	W205×H91×D299mm
質量	4.0kg
付属品	システムコントロールリモコン



D-212EX

2ウェイ・スピーカーシステム

¥69,300(税込) 2台1組 2月14日発売予定

- ヨーロッパ専門各誌で評価を得た「D-302E」のスピーカー技術を投入する、高品質ブックシェルフスピーカー
- 質感のある豊かな低音再生を実現する「13cm A-OMFモノコックウーファー」
- ヴォーカル帯域の細やかなニュアンスまで再現する「3cmリングツイーター」
- 音の「こもり」を解消し、より豊かでクリアな低音再生を実現する「アドバンスドAERO ACOUSTIC DRIVE」
- ウーファー振動板を支えるダンパーを新開発。微小信号への応答性を高めて、ヴォーカル帯域の表現力を向上
- ツイーター振動板の表面にはチタンコーティングを採用。硬度を高め、高域再生に重要なリニアリティを向上
- 工芸品のような美しい光沢とやわらかな音質を両立。リアルウッド突き板仕上げを採用
- 太いスピーカーケーブルをしっかりと接続。真鍮削り出しによる金メッキネジ式ターミナルを採用

定格インピーダンス	4Ω
最大入力	150W
定格感度レベル	83dB/W/m
周波数特性	37Hz～100kHz
クロスオーバー周波数	3kHz
キャビネット内容積	7.7リットル
最大外形寸法(1台)	W188×H302×D296mm
質量(1台)	6.9kg
付属品	スピーカーケーブル(MONSTER CABLE「XP」1.8m)×2、コルクスペーサー×8
防磁設計(JEITA)	



C-705FX2

CDプレーヤー

¥31,500(税込) 2月14日発売予定

- フラッグシップ直系の特許技術などをコンパクトな筐体に凝縮した、高性能CDプレーヤー
- デジタル機器固有のノイズを大幅に抑制する特許技術回路「VLSC」搭載。音の实在感や音場再現を飛躍的に向上
- シーラス・ロジック社製の高分解能24bit/192kHz DACを採用、小さな音楽情報まで豊かに再現
- A-905FX2と同様に制振性を追求。アルミフロントパネルを採用し、CDドライブメカや各回路基板の防振対策を徹底
- 演奏のニュアンスがより豊かに。コンデンサなど内部パーツを最適化して、微小な音楽情報の再現力を向上
- ケーブルとの接点における伝送ロスを最小限に抑え、音質劣化を防ぐ金メッキ端子を装備
- CD-R(CD-DA形式)再生に対応
- システムコントロール連動機能(A-905FX2付属のリモコンでコントロール可能)

全高調波歪率	0.005%
周波数特性	5Hz～20kHz
SN比	108dB
音声出力端子	デジタル2、アナログ1
最大外形寸法	W205×H91×D275mm
質量	2.2kg
付属品	RCAステレオピンケーブル(0.6m)、RIケーブル(0.6m)

主なテクノロジー

単独使用の実力を備えた小型セパレートコンポ

オンキヨーのオーディオ製品は、音楽を聴いたときに、たとえば歌っているアーティストの唇の動きや表情、楽器を弾く演奏者の強弱がいきいきと再現され、実際に演奏会場で感じるような興奮を感じるサウンドを追求しています。INTECシリーズは単品コンポで構成されており、アンプやスピーカーシステムなどの各製品は、セパレートで使用できる高い実力を備えています。横幅205mmというミニコンポに相当するサイズで構成されるINTEC 205シリーズは、「小型・高性能」が人気を呼び、1997年の発売から多くの音楽ファンの高い支持を集めています。



ハイレベルな駆動力を誇る小型デジタルアンプ

オーディオシステムの核になるアンプには、ハイレベルな駆動力が要求されます。ピアノの鍵盤を叩く強弱の動きなど、急激な変化を伴う音楽信号を忠実に再生するためには、スピーカーを思いのままにドライブする必要があるからです。INTECシリーズでは、アンプにとって最も重要なこのスピーカードライブ力を高めるために、電力効率が約90%という（一般的なアナログアンプは最大でも70%程度）デジタルアンプを採用しています。市場ではデジタルアンプの優位性は認めつつも、デジタルノイズによる変換エラーをクリアできずにいましたが、オンキヨーは「VL Digital」テクノロジーを開発してこの問題を解消し、音楽の「パワー感」や「スピード感」に秀でた音楽再生を実現しました。この高いスピーカードライブ力によって、たとえばINTECシリーズ以外のスピーカーとの自由な組み合わせも楽しめるようになります。



主なテクノロジー

組み合わせ自由。発展性豊かなロングライフ仕様

INTECシリーズの各機器には、将来システムアップしたいと思ったときに柔軟に対応できるように、接続端子を充実させています。右の写真は、INTEC 205シリーズのデジタルアンプ「A-905FX2」の背面部分です。アンプはシステムを構成する核になりますので、特に入出力端子を豊富に装備しています。とにかく音楽CDをいい音で楽しみたいから、最初はアンプ、CDプレーヤーにスピーカーを加えた2BOXのスタイルでスタートし、iPodのライブラリや懐かしいMDも楽しみたいと思ったら、後からシステムアップするなど、音楽スタイルに合わせて発展できます。



一体型コンポのような使いやすさでシステムアップ

INTECシリーズは音質だけでなく、使い勝手のよさも高く評価されています。単品の組み合わせ使用では、どうしても操作が複雑になりがちですが、INTECシリーズでは「RI」と呼ばれるシステムコントロール機能によって電源・セレクター連動などが働きますので、まるで一体型コンポのような使いやすさで操作できます。このRI機能はアンプやCDプレーヤーの他に、オプションのiPodドックや、MDデッキなどにも採用されています。



※INTEC 205シリーズにiPod、iPodドックは付属していません



主なテクノロジー

最先端のテクノロジーを凝縮した単品スピーカー

オンキヨーは、スピーカーの心臓部と言われるスピーカーユニットを振動板の素材開発から行い、こうして生み出された本格スピーカー技術を各製品へ投入しています。INTEC 275シリーズのスピーカー「D-302E」は、国内だけでなく日本製のスピーカーがこれまで全く評価が得られなかったヨーロッパの専門各誌や市場でも高い評価を獲得しました。あたらしいINTEC 205シリーズのスピーカー「D-212EX」は、この世界レベルのスピーカー「D-302E」の開発で得られた最先端のスピーカー技術やノウハウを惜しみなく投入しています。



INTEC 205シリーズの新スピーカー「D-212EX」

芯の太い豊かな音色を再現するスピーカーユニット

D-212EXのウーファー振動板には、センターキャップと振動板を一体成型する画期的な形状で剛性を高めた「A-OMFモノコックコーン」を搭載し、一般的な振動板で見られた分割振動（音の濁りの要因となる）を大幅に抑えることに成功しました。さらに振動板の駆動には、振動板の中心と外端の間にボイスコイルを配置するバランスドライブ構造を採用、これにより原信号に忠実な振幅を行うピストンモーション領域を拡大して、クリアで質の高い低音再生を実現しています。また、ウーファーの分厚い低音に見合った芯の太い高域を再生するため、超高域までクリアな再生を実現する「リング型ツイーター」を搭載しています。A-OMFモノコックウーファーと同様、バランスドライブ構造を採用して分割振動を抑制し、原信号に忠実な振幅だけで可聴帯域上限の20kHz近くまで達するという、従来のツイーターとは一線を画す高域再生能力を獲得しています。



A-OMFモノコックウーファー(右)とリングツイーター(左)

音質劣化を防ぐ金メッキ真鍮削り出しターミナル

スピーカーターミナル部には、導電性に優れる金メッキの真鍮削り出しタイプを採用しました。接点における信号の伝送ロスを防ぎ、経年変化による信号伝導力の劣化も抑える高品位な仕様です。また、市販される多くのスピーカーケーブルをしっかりとホルドするネジ式を採用していますので、ケーブルの交換による自在なサウンドチューニングにも柔軟に対応します。



商標について iPodは米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。その他の名称については、一般に各開発メーカーの商標または登録商標です。